

福岡県の気象概況（平成 18 年 1 月～12 月）

福岡管区気象台

（1）1月の気象概況

○1月上旬：寒気の影響を受けやすく、気温は低い

上旬は寒気の影響を受けやすく、旬平均気温は県内すべての観測所で平年より低かった。5日から6日は強い冬型の気圧配置となり県内各地で0～18ミリの降水量を観測し、平野部でも積雪した所があった。県内各地の旬平均気温は平年より1.9～3.1℃低く、旬降水量は0～18ミリ（平年比0～63%）で、旬日照時間は概ね平年並であった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

○1月中旬：低気圧や前線、気圧の谷の影響で、曇りや雨の日が多い

中旬の初めは高気圧に覆われたが、その後は低気圧や前線、気圧の谷の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。13日から14日にかけては低気圧が九州の南岸を通過した影響で、県内各地で17～37ミリの降水量を観測した。気温は、平年より高い日が多かった。県内各地の旬平均気温は平年より1.6～2.8℃高く、旬降水量は27～46ミリ（平年比82～188%）で、旬日照時間はすべての観測所で平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年並、日照時間はかなり少なかった。

○1月下旬：天気は周期的に変化、降水量は少なく、日照時間はかなり多い

下旬の天気は周期的に変化した。中頃は高気圧に覆われて晴れたが、旬の初めと終わりは気圧の谷や前線の影響で曇りや雨となった。気温は、旬の前半は平年より低かったが、後半は概ね平年より高かった。特に30日から31日は平年を大きく上回り、4月上旬から中旬並の暖かさとなった。県内各地の旬平均気温は平年より0.8～1.6℃高く、旬降水量は4～10ミリ（平年比20～48%）と少なく、旬日照時間はほとんどの観測所で平年よりかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間はかなり多かった。

(2) 2月の気象概況

○2月上旬：寒気の影響を受けやすく、気温の低い日が多い

上旬は寒気の影響を受けやすく、平年に比べ気温の低い日が多かった。旬の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は低気圧や寒気の影響で曇りや雪または雨の日が多かった。6日は低気圧が九州付近を通過して、県内各地で17～26ミリの降水量を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.1℃低く、旬降水量は22～47ミリ（平年比113～218%）で、旬日照時間は平年並か平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

○2月中旬：天気は周期的に変化

中旬は周期的に気圧の谷や前線の影響を受け、天気は周期的に変化した。15日から16日は九州南部に停滞する前線の影響で、県内各地で14～41ミリの降水量を観測した。20日は気圧の谷の影響で県内各地で4～8ミリの降水量を観測した。気温は、旬の初めと終わりは平年より低かったが、中頃は平年よりかなり高くなった。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.2℃高く、旬降水量は24～56ミリ（平年比77～151%）で、旬日照時間は平年並か平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

○2月下旬：天気は短い周期で変化、気温は高い

下旬の天気は短い周期で変化した。気温は、すべての観測所で平年よりかなり高くなった。25日から26日は低気圧が九州を通過したため、県内各地で22～34ミリの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より2.0～3.1℃高く、旬降水量は29～44ミリ（平年比101～164%）で、旬日照時間は平年並か平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

(3) 3月の気象概況

○3月上旬：天気は周期的に変化

上旬は高気圧や低気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。1日は低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で19～31ミリの降水量を観測した。6日は低気圧が九州南部を通過したため、県内各地で16～26ミリの降水量を観測した。気温は、旬の前半は寒気の影響で平年より低かったが、後半は平年より高かった。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.4℃高く、旬降水量は40～54ミリ（平年比88～149%）で、旬日照時間は概ね平年並であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

○3月中旬：天気は周期的に変化

中旬は高気圧と低気圧や寒気の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。12日は前線が九州を南下したため、県内各地で1～20ミリの降水量を観測した。13日から14日にかけては真冬並の寒気が流れ込んだため、氷点下となった所もあり、13日は飯塚で0センチの積雪を観測した。16日は低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で10～28ミリの降水量を観測した。18日は低気圧が九州を通過したため、県内各地で11～25ミリの降水量を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.3～1.6℃低く、旬降水量は27～75ミリ（平年比53～118%）で、旬日照時間は概ね平年並であった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量と日照時間は平年並であった。

○3月下旬：晴れの日が多い、23日は福岡でソメイヨシノ開花

下旬は初めと28日は気圧の谷や低気圧の影響を受けたが、その他の日は高気圧に覆われ晴れの日が多かった。21日から22日は気圧の谷や低気圧の影響で、県内各地で4～14ミリの降水量を観測した。28日は寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で雷を伴った0～14ミリの降水量を観測した。気温は、旬の中頃までは平年並か平年より高かったが、28日以降は平年より低くなった。また、23日は福岡でソメイヨシノの開花（平年より3日早く、昨年より6日早い）を観測した。県内各地の旬平均気温は平年差-1.0～+0.1℃で、旬降水量は5～20ミリ（平年比9～41%）と平年より少なく、旬日照時間はほとんどの観測所で平年よりかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は多かった。

(4) 4月の気象概況

○4月上旬：天気は周期的に変化、降水量はかなり多い

10日は、九千部山、久留米、篠栗で4月の日降水量の第1位を更新

上旬は低気圧と高気圧の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。4日から5日にかけては低気圧の影響で、県内各地で41～73ミリの雨が降った。10日も低気圧の影響で、県内各地で59～163ミリの雨が降り、特に九千部山、久留米、篠栗では4月の日降水量の多い方からの第1位を更新した。気温は、旬の中頃は平年より低かったが、その他の日は平年並か平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.2℃高く、旬降水量は117～266ミリ（平年比207～349%）と平年よりかなり多く、旬日照時間は概ね平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

○4月中旬：前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多い

中旬の前半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。11日は低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で20～88ミリの雨が降った。15日は低気圧が九州の南岸を通過したため、県内各地で17～31ミリの雨が降った。気温は、旬の初めと終わりは平年より高かったが、中頃は平年より低い日が続くなど、変動が大きかった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.7～+0.2℃で、旬降水量は54.5～135ミリ（平年比131～210%）と平年より多く、旬日照時間は概ね平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

○4月下旬：晴れの日が多い、気温は低い

行橋、篠栗、柳川、大牟田で4月の月降水量の多い方からの第1位を更新

下旬は一時的に低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。22日は低気圧が九州南部を通過したため、県内各地で7～23ミリの雨が降った。26日は低気圧が九州の南海上を通過したため、県内各地で2～6ミリの雨が降った。旬降水量は県内各地で概ね平年より少なかった。ただし、月の降水量は、上旬と中旬に降水量が多かったため、行橋、篠栗、柳川、大牟田の4地点で4月の月降水量の多い方からの第1位を更新した。気温は、旬の終わりは平年より高くなったが、その他の日は平年より低く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.8～2.2℃低く、旬降水量は11～27ミリ（平年比25～63%）と平年より少なく、旬日照時間は平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり低く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

(5) 5月の気象概況

○5月上旬：前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多い、気温は高い

上旬の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は低気圧や前線、気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。6日は前線が九州北部を通過したため、県内各地で6～134ミリの雨が降った。10日は低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で23～81ミリの雨が降った。気温は、周期的に変化し、一時的に平年より低い日もあったが、平年より高い日が多かった。県内各地の旬平均気温は平年より0.9～2.3℃高く、旬降水量は32.5～223ミリ（平年比76～279%）で、旬日照時間は概ね平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間はかなり少ない。

○5月中旬：曇りや雨の日が多く、日照時間がかなり少ない

中旬は低気圧や前線、気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、5月上旬後半から日照時間の少ない状態が続いている。13日は低気圧が九州南岸を通過し、県内各地で21～33ミリの雨が降った。17日から19日にかけては前線や台風第1号から変わった低気圧の影響で、県内各地で53～166ミリの雨が降った。気温は、旬の終わりは平年より高くなったが、その他の日は平年より低く経過した。

県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.2℃高く、旬降水量は89～215ミリ（平年比124～199%）と平年並か多く、旬日照時間は平年より少なかった。福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

○5月下旬：天気は周期的に変化

下旬は高気圧と低気圧や前線の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。23日は九州南岸にある前線の影響で、県内各地で3～37ミリの雨が降った。26日から27日にかけては前線や低気圧の影響で、県内各地で12～51ミリの雨が降った。気温は、旬の初めと終りは平年より高かったが、中頃は平年より低かった。県内各地の旬平均気温は平年より0.1～0.7℃高く、旬降水量は18～76ミリ（平年比38～205%）で、旬日照時間は平年比81～132%であった。

福岡の旬の平均気温は高く、降水量と日照時間は平年並であった。

(6) 6月の気象概況

○6月上旬：曇りや雨の日が多い、九州北部地方は8日頃梅雨入り

上旬は気圧の谷や低気圧、寒気の影響を受けやすく曇りの日が多かった。8日は東シナ海にある低気圧の影響で、県内各地で11～59ミリの雨が降った。九州北部地方は8日頃梅雨入りした（平年より3日遅く、昨年より2日早い）。気温は、旬の中頃までは北部沿岸では平年より低く、内陸部では平年より高く、8日以降は各地点とも平年より低くなった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.9～+0.6で、旬降水量は16～61ミリ（平年比20～68%）と平年並か少なく、旬日照時間は平年並か平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり低く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

○6月中旬：天気は周期的に変化、梅雨前線の影響は小さく少雨多照

中旬は高気圧と梅雨前線や気圧の谷の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。梅雨前線の影響は小さく少雨多照となった。15日は梅雨前線が九州を南下したため、県内各地で10～118ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃は平年より低い日もあったが、その他の日は平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.6～1.4℃高く、旬降水量は5～140ミリ（平年比16～108%）と平年並か少なく、旬日照時間は概ね平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

○6月下旬：梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い

下旬は梅雨前線が九州付近に停滞した影響で、曇りや雨の日が多かった。22日から23日は梅雨前線が対馬海峡から九州北部付近に停滞したため、県内各地で2日間に52～318ミリの雨が降った。特に英彦山では、22日は1時間に47ミリ、23日は1時間に54ミリの雨が降り、いずれも6月の日最大1時間降水量の多い方からの第1位を更新した。25日から26日と30日も梅雨前線の影響で局地的に雷を伴い大雨が降った。気温は、旬の前半は平年より低い日もあったが、その他の日は平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より1.1～1.9℃高く、旬降水量は249～490ミリ（平年比118～260%）と平年より多く、旬日照時間は平年比59～175%であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

(7) 7月の気象概況

○7月上旬：梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い、九千部山では年間の、前原、朝倉、英彦山では7月の、日最大1時間降水量の多い方からの第1位を更新

上旬は梅雨前線が九州付近に停滞したため、曇りや雨の日が多かった。梅雨前線の活動は活発で、局地的に雷を伴う激しい雨となり、4日は九千部山で1時間68ミリの雨が降り、年間の日最大1時間降水量の多い方からの第1位を更新し、2日は前原で1時間68ミリ、4日は朝倉で1時間64ミリ、英彦山で1時間56ミリの雨が降り、いずれも7月の日最大1時間降水量の多い方からの第1位を更新した。9日はフェーン現象により気温が上昇し、前原で36.8℃の日最高気温を観測し、7月の日最高気温の高い方からの第1位を更新した。気温は、旬の中頃は平年より低くなったが、初めと終りは平年より高かった。県内各地の旬平均気温は平年より0.1～1.3℃高く、旬降水量は147～265ミリ（平年比88～155%）で概ね平年より多く、旬日照時間は概ね平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

○7月中旬：前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多い、気温は高い

中旬の前半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かった。19日から20日にかけては梅雨前線が九州北部付近に停滞し、前線の活動が活発となり、県内各地で2日間に105～276ミリの大雨が降った。気温は、旬の終りは平年より低くなったが、その他の日は平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より1.2～2.3℃高く、旬降水量は105～281ミリ（平年比91～252%）で概ね平年より多く、旬日照時間は平年比73～128%であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

○7月下旬：前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多い 九州北部地方は26日頃梅雨明け

下旬の前半は梅雨前線が九州付近に停滞したため、曇りや雨の日が多く、後半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。九州北部地方は26日頃梅雨明けした（平年より8日遅い、昨年より9日遅い）。23日から24日にかけては梅雨前線が九州北部に停滞したため、県内各地で2日間に40～128ミリの雨が降った。気温は、旬の前半は平年より低かったが、後半は平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.1～1.1℃低く、旬降水量は61～185ミリ（平年比80～257%）で概ね平年より多く、旬日照時間は概ね平年並であった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量と日照時間は平年並であった。

(8) 8月の気象概況

○8月上旬：晴れの日が多い、気温は高い

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。2日と6日は強い日射の影響で局地的に雨が降り、6日は福岡で雷を観測した。気温は、旬を通して平年より高く経過した。特に9日は大牟田で35.8℃の日最高気温を観測し、8月の日最高気温の高い方からの第1位を更新した。県内各地の旬平均気温は平年より1.5～2.5℃高く、旬降水量は0～48ミリ（平年比0～121%）で、旬日照時間は平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

○8月中旬：前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多い、気温は高い

下旬の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は台風第10号の影響で曇りや雨の日が多かった。18日は台風第10号が宮崎市付近に上陸した後、九州をゆっくりと北上したため、県内各地で大雨となり、篠栗、添田、英彦山で8月の日降水量の多い方からの第1位を更新した。気温は、旬の終りは平年より低くなったが、その他の日は平年より高く経過した。特に17日は久留米で最低気温28.5℃を観測し、年間の日最低気温の高い方からの第1位を更新した。県内各地の旬平均気温は平年より0.7～1.5℃高く、旬降水量は83～330ミリ（平年比147～558%）で平年より多く、旬日照時間は平年並か平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

○8月下旬：前半は晴れの日が多く、後半は曇りや雨の日が多い、気温は高い、26日は飯塚で、30日は英彦山で8月の日最大1時間降水量の多い方からの第1位を更新

下旬の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、局地的に雷を伴った強い雨が降る日が多く、特に26日は飯塚で1時間に79ミリの激しい雨が降り、8月の日最大1時間降水量の多い方からの第1位を更新した。30日から31日にかけては前線が九州北部付近に停滞したため、県内各地で2日間で36～183ミリの雨が降った。特に英彦山では30日に1時間に60ミリの非常に激しい雨が降り、8月の日最大1時間降水量の多い方からの第1位を更新した。気温は、旬の終りに平年より低くなったが、その他の日は平年より高く経過した。なお、8月は前半を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多く、前原で8月の月間日照時間の多い方からの第1位を更新した。県内各地の旬平均気温は平年より0.6～1.3℃高く、旬降水量は56～254ミリ（平年比67～416%）で概ね平年より多く、旬日照時間は平年並か平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

(9) 9月の気象概況

○9月上旬：天気は短い周期で変化

上旬は前線や気圧の谷と高気圧の影響を交互に受け、天気は短い周期で変化した。5日と9日は前線の影響で、県内の多い所でそれぞれ50ミリ以上の雨が降った。気温は、周期的に変化し、中頃と旬の終りは平年より低かった。県内各地の旬平均気温は平年差 $0.0\sim+0.8^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は $17\sim134$ ミリ（平年比 $23\sim171\%$ ）で、旬日照時間は平年並か平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間は少なかった。

○9月中旬：曇りや雨の日が多い、17日は福岡で最大瞬間風速 49.0m/s

中旬は前線や台風の影響で曇りや雨の日が多かった。12日から13日にかけては前線の影響で県内各地で2日間に $20\sim60$ ミリの雨が降った。15日から18日にかけては前線や台風第13号の影響で、県内各地で4日間に $30\sim212$ ミリの雨が降った。台風第13号は、17日18時過ぎに長崎県佐世保市付近に上陸した後、佐賀県、福岡県を通過し、20時頃玄海灘へ抜け、日本海へと進んだ。県内は17日夕方には全域が台風の暴風域に入り、福岡で19時38分に南の風 49.0m/s （観測開始以来第2位）、飯塚で20時04分に南南東の風 40.0m/s の最大瞬間風速を観測したほか、アメダス観測所4地点で観測開始以来第1位となる日最大風速を観測した。この暴風により、死傷者が出たほか、住家や農作物への被害が多数発生した。気温は、概ね平年より低く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より $0.6\sim1.5^{\circ}\text{C}$ 低く、旬降水量は $55\sim240$ ミリ（平年比 $108\sim342\%$ ）で概ね平年より多く、旬日照時間は平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

○9月下旬：晴れの日が多く、顕著な少雨多照

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多く、県内で1ミリ以上の雨を観測した所はなかった。このため、顕著な少雨多照となった。気温は、旬の前半に平年より低い日があったが、後半は概ね平年並で経過した。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.8\sim+0.4^{\circ}\text{C}$ 、旬降水量は全地点で0ミリ、旬日照時間は平年よりかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

(10) 10月の気象概況

○10月上旬：晴れの日が多い

上旬の天気は周期的に変化したが、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。1日は前線の影響で、県内各地で0～13ミリの雨が降った。5日と6日は前線や気圧の谷の影響で、県内の一部で数ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃を中心に概ね平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.6～1.6℃高く、旬降水量は0～27ミリ（平年比0～59%）で概ね平年より少なく、旬日照時間は概ね平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。

○10月中旬：晴れの日が多い、高温、少雨、多照

中旬は高気圧に覆われて晴れの日が多く、少雨多照となった。気温は、旬を通して平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より1.3～2.9℃高く、旬降水量は0～1ミリ（平年比0～3%）で平年より少なく、旬日照時間は平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

○10月下旬：晴れの日が多い、顕著な高温

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多く、多照となった。22日は朝鮮半島付近にある低気圧から延びる前線の影響で、県内各地で3～32ミリの雨が降った。気温は、旬を通して平年より高く経過し、顕著な高温となった。なお、太宰府、久留米では、10月の月平均気温の高い方からの第1位を更新した。県内各地の旬平均気温は平年より2.6～3.6℃高く、旬降水量は3～66ミリ（平年比28～287%）で、旬日照時間は概ね平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は多かった。

(11) 11月の気象概況

○11月上旬：晴れの日が多い、気温は高い

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。5日から7日にかけては寒冷前線や寒気の影響で、県内各地で1～22ミリの雨が降った。9日から10日は寒冷前線が通過した影響で、県内各地で4～29ミリの雨が降り、雷を伴った所もあった。10日はうきは市で、ひょうが降った。気温は、7日から8日は寒気の影響で平年より低くなったが、その他の日は平年より高く経過し、旬の平均気温はすべての観測所で平年より高かった。県内各地の旬平均気温は平年より1.4～2.5℃高く、旬降水量は6～40ミリ（平年比20～167%）で、旬日照時間は平年より多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は多かった。

○11月中旬：天気は周期的に変化、降水量は多い

中旬は高気圧と前線や低気圧の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。11日は低気圧が四国付近を東進した影響で、県内各地で8～32ミリの雨が降り、雷を伴った所もあった。14日は寒冷前線が通過した影響で、県内各地で0～8ミリの雨が降った。18日から20日にかけては低気圧が九州の南海上を通過した影響で、県内各地で12～40ミリの雨が降った。気温は、旬の中頃と終わりは平年より高く、旬の初めと17日から18日は平年より低かった。また、18日は福岡でいちじくの黄葉（平年より11日遅く、昨年より3日遅い）を観測した。県内各地の旬平均気温は平年差-0.4～+0.4℃で、旬降水量は27～75ミリ（平年比154～275%）で平年より多く、旬日照時間は平年並か少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

○11月下旬：曇りや雨の日が多い、顕著な高温

下旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、多雨寡照となった。22日から23日は九州の南海上を通過する低気圧の影響で、県内各地で13～31ミリの雨が降った。26日から28日にかけては九州を低気圧が次々に通過したため、県内各地で14～68ミリの雨が降った。気温は、旬を通して平年より高く経過し、顕著な高温となった。県内各地の旬平均気温は平年より2.1～3.2℃高く、旬降水量は34～91ミリ（平年比118～221%）と平年並か多く、旬日照時間は平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

(12) 12月の気象概況

○12月上旬：曇りや雨の日が多い

上旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。2日は寒冷前線が通過したため、県内各地で0～7ミリの降水量を観測し、雷を伴った所もあった。7日は低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で14～22ミリの降水量を観測した。9日は気圧の谷の影響で、県内各地で0～17ミリの降水量を観測した。気温は、旬の前半は寒気の影響で平年より低かったが、後半は平年より高く経過した。

県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.2\sim 0.9^{\circ}\text{C}$ で、旬降水量は15～40ミリ（平年比84～151%）で平年並か多く、旬日照時間は全ての観測所で平年より少なかった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間は少なかった。

○12月中旬：天気は周期的に変化、降水量は多い、17日は福岡で初雪

中旬は高気圧と前線や気圧の谷の影響を交互に受け、天気は周期的に変化した。13日は前線が九州付近に停滞したため、県内各地で3～17ミリの降水量を観測した。16日から18日にかけては気圧の谷の通過後、強い冬型の気圧配置となり、県内各地で2～44ミリの降水量を観測し、雷を伴った所もあった。17日は福岡で初雪（平年より4日遅く、昨年より13日遅い）を、19日は福岡で初霜（平年より11日遅く、昨年より6日早い）を観測した。気温は、11日から16日までは平年より高かったが、17日から19日は寒気が流れ込んだ影響で平年より低くなった。県内各地の旬平均気温は平年より $1.1\sim 2.2^{\circ}\text{C}$ 高く、旬降水量は11～53ミリ（平年比84～198%）でほとんどの観測所で平年より多く、旬日照時間は平年並か少なかった。

福岡の旬の平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

○12月下旬：晴れの日が多い、28日から29日は冬型気圧配置

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。26日は低気圧が九州の南海上を通過したため、県内各地で0～3ミリの降水量を観測した。28日から29日は冬型の気圧配置となり寒気が流れ込んだ影響で、県内各地で0～4ミリの降水量を観測した。気温は、旬の中頃までは平年より高かったが、終わりは寒気の影響で平年より低くなった。県内各地の旬平均気温は平年より $0.2\sim 1.2^{\circ}\text{C}$ 高く、旬降水量は0～5ミリ（平年比0～34%）で概ね少なく、旬日照時間は平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。

(13) 月別値の階級区分

福岡の月別値の階級区分

年 月	月平均気温	月間降水量	月間日照時間
平成 18 年 1 月	平年並	少ない	平年並
平成 18 年 2 月	高い	多い	平年並
平成 18 年 3 月	平年並	平年並	平年並
平成 18 年 4 月	平年並	かなり多い	平年並
平成 18 年 5 月	平年並	多い	かなり少ない
平成 18 年 6 月	高い	平年並	平年並
平成 18 年 7 月	平年並	多い	少ない
平成 18 年 8 月	高い	多い	多い
平成 18 年 9 月	平年並	多い	多い
平成 18 年 10 月	かなり高い	少ない	かなり多い
平成 18 年 11 月	かなり高い	多い	平年並
平成 18 年 12 月	高い	少ない	平年並

(14) 年別値の階級区分

福岡の年の値の階級区分

年	年平均気温	年間降水量	年間日照時間
平成 18 年	高い	多い	平年並

解説用階級区分について

平成 13 年 1 月から使用を開始した 1971～2000 年統計値からは、「高い（多い）」、「平年並」、「低い（少ない）」の 3 階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」を補足的に用いることになりました。3 階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」（1：1：1）の等確率で、「かなり高い（多い）」、「かなり低い（少ない）」の出現率は 10%です。